

## 令和6年度 日南市立日南東郷小中学校 自己評価書

4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

<b>1 学校の教育目標「豊かな心で、自ら学び考え、たくましく生きていくことができる子どもの育成」</b> <b>2 めざす子ども像「優しい子ども」「賢い子ども」「たくましい子ども」</b> <b>3 めざす学校像「明るく活気に満ち、夢と希望のある学校」「尊敬と信頼に支えられる学校」「地域に開かれ親しまれ、信頼される学校」</b> <b>4 めざす教師像「教育愛に燃え、実践する教師」「教育目標の具現化に取り組む教師」「子どもの可能性を引き出し伸ばす教師」</b>						
<b>&lt;学校経営ビジョン&gt; 夢や目標実現に向け、地域と一緒に小中一貫して東郷の子どもを育む (日南教育の推進) 「今日が楽しく 明日が待たれる学校」</b>						
目標	具体的目標	方策・手立て	R5自己評価	R6自己評価	手立てとして行ったことや感想また今後、取り組みたいこと等	
1 優しい子どもを育てる	○道徳教育の充実	○道徳の時間の確保と充実を図るとともに、児童生徒の実態に即した道徳教育を展開することで他者を深く理解する態度を養う。 ○「対話的で深い学び」を目指した授業を構築し、道徳的実践力の育成を図る。	3.2	3.3	道徳教育は、学校教育活動全体を通して行うべきもの。本校は、地域人材を活用した学習活動や環境教育の体験活動という道徳性を培える環境にある。道徳科の授業において、授業前や授業後の振り返りに十分活かしきれていない面が見られる。今後、道徳科の授業でそれらの体験や経験したことを活かしていくことが、考え方議論する「対話的で深い学び」の道徳科への変容となる。2	
	○挨拶、気持ちよい返事、感謝の言葉の励行	○日常活動を工夫し機会を捉えた適切な指導を行うことにより、児童生徒に、挨拶、気持ちよい返事、感謝の言葉を伝える習慣と、整理整頓に心がけしっかりと清掃を行う力が身に付くようにする。	3.1	3.2	挨拶の声の大きさには、個人差があるが気持ちのよう挨拶を返す児童生徒は少くない。清掃は、清掃の手順のスキルを今後徹底していく。3	
	○児童会生徒会活動を通じての共生力の育成	○みのり集会や学校行事等で児童会生徒会の活動が生かせるようにするなど、子どもが中心となる活動を工夫することで児童生徒の共生力を育成する。	3.4	3.2	全体を通して、活動がなされている。今後は、児童会もより積極的に中学部に交じり、中学生のよさに気付き、自指す手本として学ぶ。5・6年生も主としてやれる、一貫校ならではの活動を展開していくとよい。4	
	○「よりよい行動」を意識した行動の充実	○児童生徒の望ましい行動に注目して、出来ていることを認め（賞賛）、自ら考え望ましい行動を増やしていく児童生徒を育成する。	3.0	3.1	あたりまえのことをあたりまえにできることから。（凡事徹底）・・・あれほど生徒会が頑張っているのになぜかな？2	
2 賢い子どもを育てる	○分かる授業の充実	○「授業改善のチェックポイント」を土台とした授業改善を継続し、分かる・できるまで教える授業を実践する。 ○読解力を育成することを意識した授業づくりを行う。 ○校内研修を充実させながら学習指導法の工夫・改善を図る上で、ICTの積極的活用を行つ。	3.1	2.6	小学校部の分かる授業とは、45分の授業後に身につけさせたい力が身につき、児童が理解できた授業。タブレットは、単なる鉛筆や消しゴムのようなもの。どの教科においても、言語活動の充実がなされるように、「話す・聞く・書く・読む」活動をすれば、しっかりと習熟まで組める授業の展開が求められる。小学校においては、基礎となる学習課題や45分で勝負できるスキル的な東獨スタイルを確立していく必要がある。明日が待ち遠しいことの裏返しは、授業がよく分かり、解いてできる自分がいることか前進だと考える。3	
	○学力の向上	○各種テストの結果分析を行う。 ○結果分析を受けて改善工夫を図る。	3.0	2.8	各担任が、まずは自分で現在の児童生徒の経年変化をデータで記録し、変容に気付くことで、成果と課題が見えてくる。より踏み込めるように作業計画を組んでいく。2	
	○読書活動の推進	○日南市「旅する読書」活動を推進する。 ○親子読書や読み聞かせなどの取組を工夫することにより読書活動を充実させる。(小学校) ○集団読書を通して短編の良書に触れる機会を設定する。(中学校)	2.7	2.2	小学校部は、旅する読書を取り組む児童があり、全校表彰で意識の高揚を図っている。毎月23日をノー宿題デーとして、どっぷり読書につかる日を設定するなどするとよい。3	
	○キャリア教育を通して自己実現を目指し、勤労を重んじる態度の育成	○発達段階に応じた体験活動の充実を図る。(小) ○小中一貫した進路指導の充実を図る。 ○職場体験学習や社会人講話、ジョブシャドーイング(JSW)等の体験、さらに中高連携を図り、自己実現できる生徒を育成する。	2.9	2.8	小学校部のグッジョブフェスタの参加は10名で昨年よりも一段と参加者が多かった。キャリア教育の成果ではないか。3	
	○学校と家庭の連携による学習指導の充実	○保護者への啓発を強化したり家庭学習の目的や実施方法について指導したりして学習指導の充実を図る。 ○児童生徒の実態に配慮し、適切な課題を提示することにより学習指導の充実を図る。	3.0	3.0	小学校部は各担任が、毎日及び1週間に1回の学級通信を発行し、学校生活の様子や担任の教育方針などを知らせている。必要に応じて保護者に電話をかけ、保護者に児童の様子を伝える中で、担任の教育方針や期待する児童像へと導けるように啓発に努めて、少しずつ改善されている。3	
3 たくましい子どもを育てる	○健康安全・体育的行事の充実	○運動会や持久走大会などの体育的行事の充実を図る。 ○避難訓練や交通安全教室などの取組を工夫する。 ○学校保健委員会を開催し保護者の体育学習や保健学習への理解を深める。 ○体力向上プランを活用した体育学習及び保健学習の指導を実施するとともに、運動の日常化を推進し運動能力の向上を図る。	3.1	3.0	前年度の課題を改善し、新たな視点で取り組むことができている。3	
	○食育や健康教育の充実	○栄養職員や外部講師と連携した指導など工夫した取組を行い、性教育や命を大切にする教育、食育や健康教育の充実を図る。	3.2	3.1	栄養職員との連携で、計画的に栄養指導の授業が実施されている。学校保健委員会でも外部講師を招聘して、ねらいの達成を図っている。レインボープランを活用して、さらなら充実を目指す。3	
	○部活動への積極的参加	○計画的で充実した活動の工夫を行う。(中学校)	3.6	3.6		
4 地域との連携の充実	○ふるさとを知り、ふるさとを大切にする心の育成 ○地域の方々との交流を通して、地域を愛し、愛される子どもの育成	以下のような活動を充実させる。 小学校：稻作体験 さとねり体験 もちつき ひな山まつり 中学校：キンカン収穫 小中合同：日南くろしお支援学校との交流 四季の森こども園との交流 大運動会 学習発表会 くすのき祭り つわぶき植栽 風田浜清掃	3.1	3.1	様々な活動を通して、地域愛やふるさと愛などは高まっているように思う。風田浜の清掃前には、うみがめの生態など関わる方に話をいただき、単なる清掃にとどまらず、環境の保持という点で児童生徒に考えさせる場を設定していただきたい。(PTAからの要望有) 4	